CD-R ドライブ

CDR-S820A

ユーザーズマニュアル

はじめに 6 **1**

セットアップ 11 **2**

取り扱いかた 15 **3**

書き込みと読み出し 17 **4**

音楽 CD を聞くには 19 **5**

付録 .... 20 **A**

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク .... ↘次へ に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。

文中の用語表記

- 本製品を「CDR」と表記しています。
- 文中の[ ]は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。
- [ ] は、キーボード上のキーを表しています。(例) [Enter]
- CD-ROM、音楽CD、CD-Rメディアなどを合わせて「CD」と表記しています。

著作権について

著作権者の許諾なしにCD-ROMや音楽CDを複製することは法律により禁じられています。CDRを使用しての複製の際は、オリジナルCDの使用許諾条件に関する注意事項に従ってください。

■ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社インフォメーションセンターまでご連絡ください。
また、本製品の使用に起因する損害や逸失利益の請求などにつきましては、上記にかかわらず弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品は日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外で使用した場合の運用結果につきましては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
また弊社は、本製品に関して海外での保守および技術サポートは行っておりません。

■ 本製品のうち、外国為替および外国貿易管理法の規定により戦略物資等(または役務)に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可(または役務取引許可)が必要です。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を記載しました。
正しく使用するために、必ずお読みになり内容をよく理解された上で、お使いください。なお、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。
パソコンの故障／トラブルや、いかなるデータの消失・破損または、取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障／トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

■使用している表示と絵記号の意味

警告表示の意味

⚠ 警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

絵記号の意味

△	△は、警告・注意を促す記号です。△の近くに具体的な警告内容（例：⚠感電注意)が描かれています。
⃠	○に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。 ○の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例：分解禁止）
●	●は、しなければならない行為を示す記号です。 ●の近くに、具体的な指示内容（例：プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告

本製品を取り付け、使用する際は、必ずパソコンメーカおよび周辺機器メーカが提示する警告や注意指示に従ってください。

本製品の分解、改造、修理を自分でしないでください。

火災や感電の恐れがあります。

AC100V(50/60Hz)以外のACコンセントには、絶対に電源プラグを差し込まないでください。

海外などで異なる電圧で使用すると、ショートしたり、発煙、火災の恐れがあります。

SCSIケーブルは必ず本製品付属のもの、または同等のもの（弊社製接続キット）をご使用ください。

本製品付属以外のSCSIケーブルをご使用になると、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙、発火の恐れがあります。本製品の故障の原因ともなります。

電源コードを傷つけたり、加工、加熱、修復しないでください。

火災になったり、感電する恐れがあり、本製品の故障の原因ともなります。

- 設置時に、電源コードを壁やラック（棚）などの間にはさみ込んだりしなでください。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしないでください。
- 熱器具を近付けたり、加熱しないでください。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- 極端に折り曲げないでください。
- 電源コードを接続したまま、機器を移動しないでください。

万一、電源コードが傷んだら、弊社インフォメーションセンターまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。

電源プラグは、ACコンセントに完全に差し込んでください。

差し込みが不完全なまま使用すると、ショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。

本製品の取り付け、取り外しをするときは、本製品およびパソコン、周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

電源プラグをコンセントに接続したまま取り付け、取り外しを行うと、感電および故障の原因となります。

電気製品の内部やケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を配置してください。

さわってけがをする危険があります。

小さなお子様が電気製品を使用する場合には、本製品の取り扱い方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。

イジェクトピンは、小さなお子様の手の届かないところに保管してください。

本製品付属のイジェクトピンは、小さなお子様の手の届かないところに置き、使用後は放置せずに直ちに片付けるようにしてください。目を突いたり、飲み込んだりすると、大変危険です。

濡れた手で本製品に触れないでください。

電源プラグがACコンセントに接続されているときは、感電の原因となります。また、ACコンセントに接続されていなくても、本製品の故障の原因となります。

煙が出たり変な臭いや音がしたら、すぐに電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。
弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

風呂場など、水分や湿気が多い場所では、本製品を使用しないでください。

火災になったり、感電や故障する恐れがあります。

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。与えてしまった場合はすぐに電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

本製品に液体をかけたり、異物を内部に入れたりしないでください。液体や異物が内部に入ってしまったら、電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

レーザー光線を直視しないでください。

トレーを開けて中をのぞいたり、本製品を分解しないでください。レーザー光線が目に入ると視覚に障害を及ぼす恐れがあります。

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除いてください。

人体などからの静電気は、本製品を破損、またはデータを消失、破損させるおそれがあります。

⚠注意

パソコンおよび周辺機器の取り扱いは、各機器のマニュアルをよく読んで、各メーカの定める手順に従ってください。

次の場所には設置しないでください。感電、火災の原因となったり、製品やパソコンに悪影響を及ぼすことがあります。

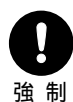
- 強い磁界、静電気が発生するところ
- 温度、湿度がパソコンのマニュアルが定めた使用環境を超える、または結露するところ
- ほこりの多いところ
  →故障の原因となります。
- 振動が発生するところ
  →けが、故障、破損の原因となります。
- 平らでないところ
  →転倒したり、落下して、けがや故障の原因となります。
- 直射日光が当たるところ
- 火気の周辺、または熱気のこもるところ
  →故障や変形の原因となります。
- 漏電、漏水の危険があるところ
  →故障や感電の原因となります。

本製品の取り付け、取り外しや、ソフトウェアをインストールするときなど、お使いのパソコン環境を少しでも変更するときは、変更前に必ずパソコン内（ハードディスク等）のすべてのデータをMOディスク、フロッピーディスク等にバックアップしてください。

誤った使い方をしたり、故障などが発生してデータが消失、破損したときなど、バックアップがあれば被害を最小限に抑えることができます。

データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

パソコンおよび周辺機器の電源スイッチがONの状態で、SCSIケーブルの抜き差しをしないでください。

本製品および周辺機器の故障の原因となります。

各接続コネクタのチリやほこり等は、取りのぞいてください。また、各接続コネクタには手を触れないでください。

故障の原因となります。

本製品の上に物を置かないでください。

傷がついたり、故障の原因となります。

CD-ROM、音楽CD、CD-Rメディア（以後CDと表記）は次の点に注意して大切にお使いください。

- 直射日光を当てないでください。
- シンナーやベンジン等の有機溶剤を使ってお手入れをしないでください。
  汚れは、少量の水で湿らせた柔らかい布で拭き取ってください。必ず、中心から外側へ向って軽く拭き取ってください。
- 表面に傷を付けたり、テープを貼ったり、文字を書いたりしないでください。
- 高温、多湿になる場所や、ほこりの多い場所に置かないでください。
- 表面に手を触れないでください。
  両端を持つか、縁と中央の穴をはさむようにして持ってください。
- 持ち運ぶときは、必ずプラスチックケースに入れて大切に取り扱ってください。

ひびわれや変形、補修したCDは使用しないでください。

本製品内部で砕けて、けがや故障の恐れがあります。

CD-Rメディアの反射層が剥離する原因となりますので、次のことは行わないでください。

- 表面（レーベル面）に傷を付けないでください。
- CD-Rメディア同士を重ねないでください。
- レーベル面にタイトルなどを書き込むときは、ボールペンなどの先の硬い筆記用具を使用しないでください。
- シールやラベルなどを貼らないでください。

本製品にCDを入れたまま移動させないでください。

本製品の動作中または、CDを本製品に入れた状態で移動しないでください。
CD、本製品に損傷を与える恐れがあります。移動する場合は、必ずCDを取り出し、電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

通風口やファンをふさいだり、他の機器と密着させないでください。

故障の原因となります。

定期的にレンズのクリーニングを行ってください。

本製品内部のレンズ等に、ほこりやたばこの煙等が付着し、CDの再生が正常にできなくなったり、書き込みができなくなることがあります。市販のレンズクリーニングキットで、定期的にレンズのクリーニングを行ってください。

ヘッドホンをご使用になる場合、ボリュームを大きくしないでください。

大きな音で長時間ヘッドホンをご使用になると、聴覚障害の原因となります。

シンナーやベンジン等の有機溶剤で、本製品を拭かないでください。

本製品の汚れは、乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどい場合は、きれいな布に中性洗剤を含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。

本製品の電源スイッチは、パソコンよりも先にONにしてください。
一度OFFにした電源をONにし直すときは、少なくとも数秒待って行ってください。

本製品の故障、データの消失・破損の恐れがあります。

本製品が次の状態の時は、電源スイッチをOFFにしたり、パソコンを再起動しないでください。データが消失、破損する恐れがあります。

- WRITEランプが点灯している
- READランプが点灯または点滅している

目 次

1 はじめに 6

特長 6
必要なパソコン環境 6
パッケージの内容 7
各部の名称 7
CD-R とは 8

2 セットアップ 11

セットアップ手順 11
接続時の注意 11
接続のしかた 14

3 取り扱いかた 15

CDR の操作 15
CD-R メディアの取り扱いに関する注意 16

4 書き込みと読み出し 17

書き込みを失敗しないために 17
書き込み 17
読み出し 18

5 音楽 CD を聴くには 19

オーディオ機器の接続 19
再生のしかた 19

A 付録 20

こんなときには 20
仕様 24
用語集 25

1 はじめに

CDRの特長やCD-Rの基礎知識など、事前に知っておいて頂きたいことを説明しています。

特長

● **CD-Rメディアに書き込み可能**

CDRは、CD-Rメディアにデータを書き込むことができます。書き込み時は最大1200KB/sec(8倍速)、読み出し時は最大3000KB/sec(20倍速)でデータ転送が可能です。

● **多彩なフォーマット形式をサポート**

次のCDのフォーマット形式をサポートしています。

・CD-DA(音楽CD)　・CD-ROM(Mode1)　・CD-ROM XA　・HFS
・ISO9660　・Hybrid　・Photo CD(*)　・Video CD(*)
・CD Extra

*** 書き込みには、Photo CDおよびVideo CDの規格に準拠したファイル形式(*.JPG、*.MPGなど)でキャプチャしたデータが必要です。キャプチャには市販のキャプチャボードを使用してください。読み出しには、再生ソフトウェアまたはハードウェアが別途必要です。**

● **CDのバックアップが可能**

CD-ROMドライブから直接バックアップするオンザフライバックアップと、CDR1台だけでも可能な方法(ハードディスクにCDのイメージを作成する方法)があります。

必要なパソコン環境

CD-Rの書き込みには、次のパソコン環境が必要です。

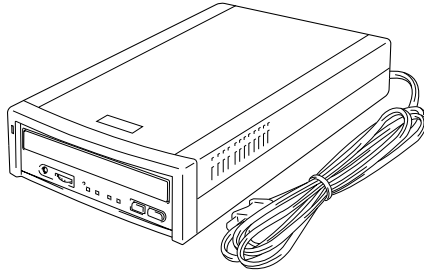
・パソコン本体 .... PowerMacintoshシリーズ、PowerMacintosh G3シリーズ(*1)
・OS .... 漢字Talk7.5.5以降、Mac OS7.6以降
・アプリケーション用RAM 16MB
・メモリ容量 .... 32MB以上(64MB以上推奨)
・ハードディスク容量 MacCDRのインストール用に約5MB
　MacCDRの一時的な作業領域として約50〜800MB(*2)

***1 PowerMacintosh G3シリーズの場合は、バスマスタ転送のPCIバス対応SCSIインターフェースボード(弊社製IFC-WSPA、もしくは相当品)および50ピンタイプのSCSIケーブル(弊社製DKC-CS、もしくは相当品)が必要です。**

***2 書き込むデータの容量によって異なります。ただし、オンザフライの書き込み時には作業領域を使用しません。**

パッケージの内容

パッケージには、次の物が梱包されています。万一、不足している物がありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。なお、製品の形状はイラストと異なる場合があります。

● CDR（本体） 1台

● SCSIケーブル
（D-subハーフピッチ50ピン凸←→
フルピッチ25ピン　） 1本

● イジェクトピン 1本

● 保護プレート 1個

※ 出荷時にトレーにセットされています。CDRのヘッドを保護するものなので、使用する前に取り外してください。また、取り外した後は大切に保管し、CDRの運搬時や弊社に修理を依頼されるときなどは、必ずトレーにセットしてください。

● ターミネータ
（D-subハーフピッチ50ピン凸） 1個

● CD-Rメディア（650MB/74分） 2枚

● ユーザーズマニュアル（本書） 1冊

● CD-ROM 1枚

※ ライティングソフトウェア「MacCDR」が収録されています。

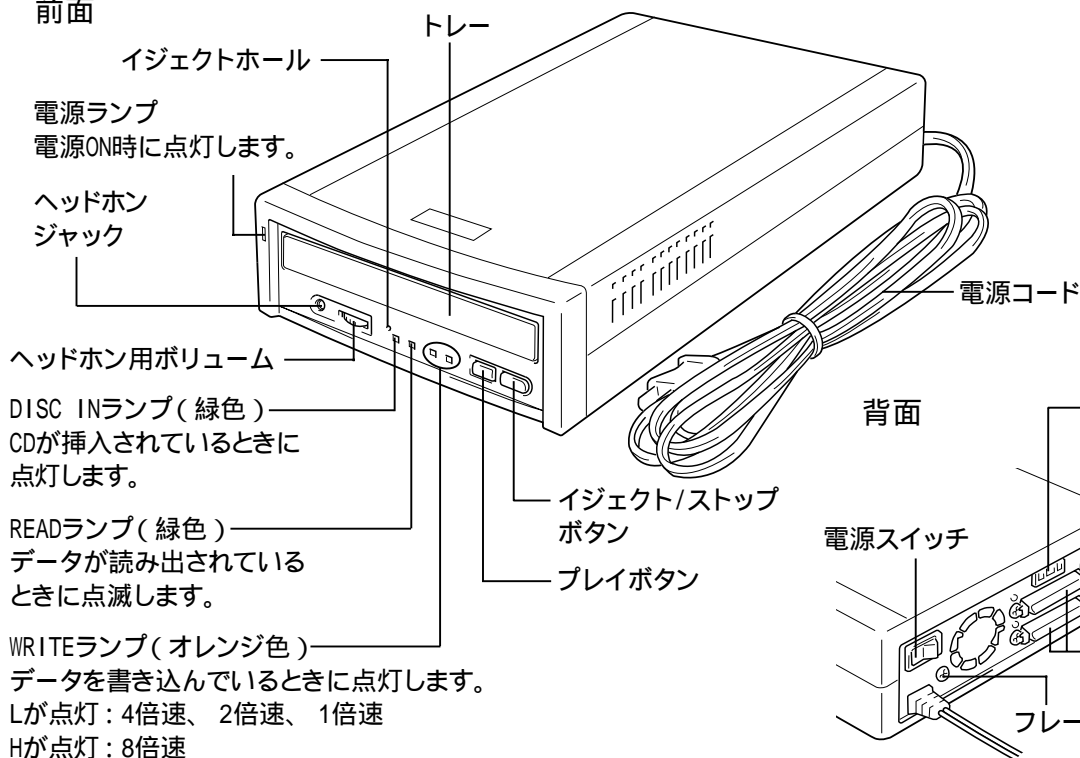
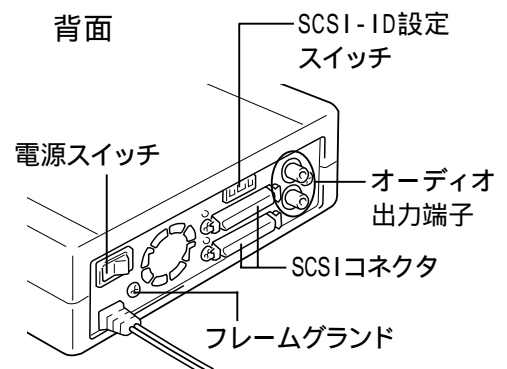
● MacCDRユーザーガイド 1冊

● お客様登録カード（MacCDR用） 1枚

● ユーザー登録はがき、保証書 1枚

※ ユーザー登録はがきは保証書を切り離した後、必要事項をご記入の上、必ず弊社までご返送ください。また、切り離した保証書は、大切に保管してください。

※ 別紙で追加情報が同梱されているときは、必ず参照してください。

各部の名称

CD-Rとは

CD-ROMからCD-Rへ

CD-ROM(Compact Disk-Read Only Memory)は、音楽CD(CD-DA=Compact Disk Digital Audio)のエラー検出機能を強化して、コンピュータ用に使用する目的で開発されました。

CD-ROMは、ピットと呼ばれる凹凸によってレーザーの反射率を変えることで、デジタルデータを記録しています。

CD-ROMには、650MBの大容量や大量生産時（100枚以上）のコストの低さなど多くのメリットがあります。ただし、CD-ROMは音楽CDと同じようにプレスによって大量に生産するため、数枚のCD-ROMを作成する場合には、1枚当たりのコストは高額になります。

そこで、CD-ROMのピットに当たる凹凸をレーザーの照射によって作成するCD-R(Compact Disk-Recordable)が開発されました。

CD-Rで作成したCDは、一般の音楽CD用プレーヤーやCD-ROMドライブで読み出せます。

CD-Rメディアの構造

CD-RメディアとCD-ROMとの構造上の大きな違いは、CD-Rメディアが記録層に特殊な有機色素を使用していることです。（図1参照）

CD-Rでは、読み出し時よりも強力なレーザーを記録層に照射することでデータを記録します。レーザーが照射された部分の記録層では、有機色素が熱分解されます。

熱分解された部分は他の部分とは反射率が異なるため、CD-ROMのピットと同じようにデジタルデータを記録できるのです。ただし、熱分解された記録層は元に戻せないため、CD-Rメディアに書き込んだデータは消去できません。

※ **削除が可能なライティングソフトウェアもありますが、その場合の削除はデータにアクセスできないようにするだけです。データが消去されてディスク容量が復活することはありません。**

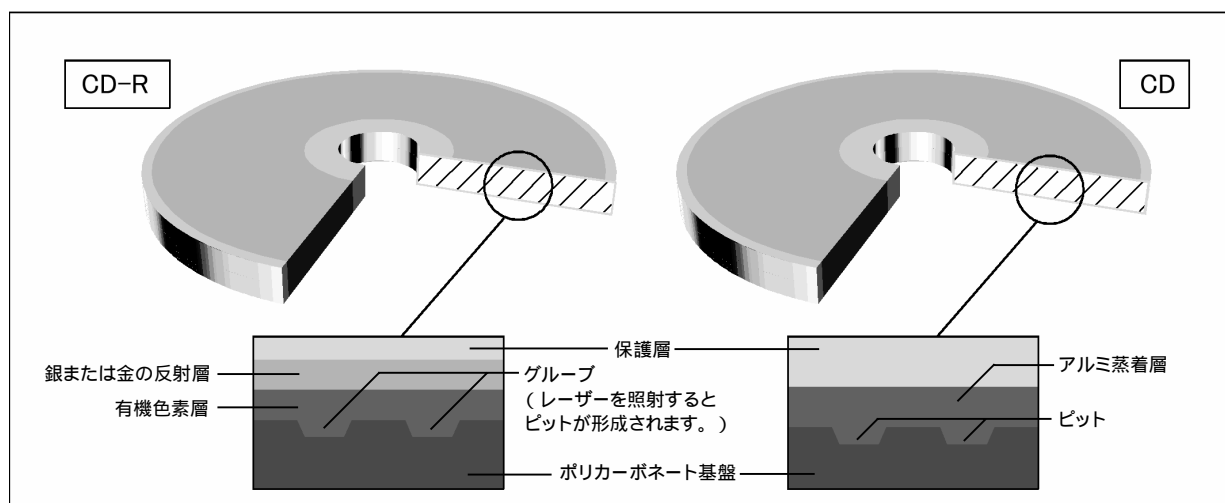



図1

次のページへ続く

CD-Rの書き込み方式

CDR付属のライティングソフトウェア「MacCDR」は、「ディスクアットワンス方式」、「トラックアットワンス方式」、「セッションアットワンス方式」という書き込み方式に対応しています。

● ディスクアットワンス方式

- リードインからリードアウトまでを1回で書き込む。(図2参照)
- 1枚のCD-Rメディアに対して1回だけ書き込みができる(容量が残っていても追記できない)。
- CD-ROMをプレスする際のマスターディスクとして使用できる。

メモ MacCDRでの書き込み時に「Disc At Once」を選択すれば、ディスクアットワンス方式で書き込めます。

図2

セッション	1回の書き込みの開始から終了までのエリアです。
PCA	Power Calibration Areaの略。書き込み時のレーザーの強度を最適に調整するための、試し書き用のエリアです。
PMA	Program Management Areaの略。記録中のトラック情報などを一時的に記録します。
リードイン	データの開始点であることを示します。セッション内のトラック情報が書き込まれています。
リードアウト	データの終了点であることを示します。

●トラックアットワンス方式

- ディスク容量に空きがある限り、何度でも追記が可能。(図3参照)
- CD-ROMの標準フォーマット「ISO9660」と互換性があるため、一般的なCD-ROMドライブで読み出せる。

⚠注意 1回書き込むごとにリードアウトとリードインが書き込まれるため、13〜23MBが余分に消費されます。また、MacCDRで「追記禁止」に設定して書き込みをすると、以降はそのCD-Rメディアには追記できなくなります。

メモ MacCDRでの書き込み時に「Track At Once」を選択すれば、トラックアットワンス方式で書き込めます。

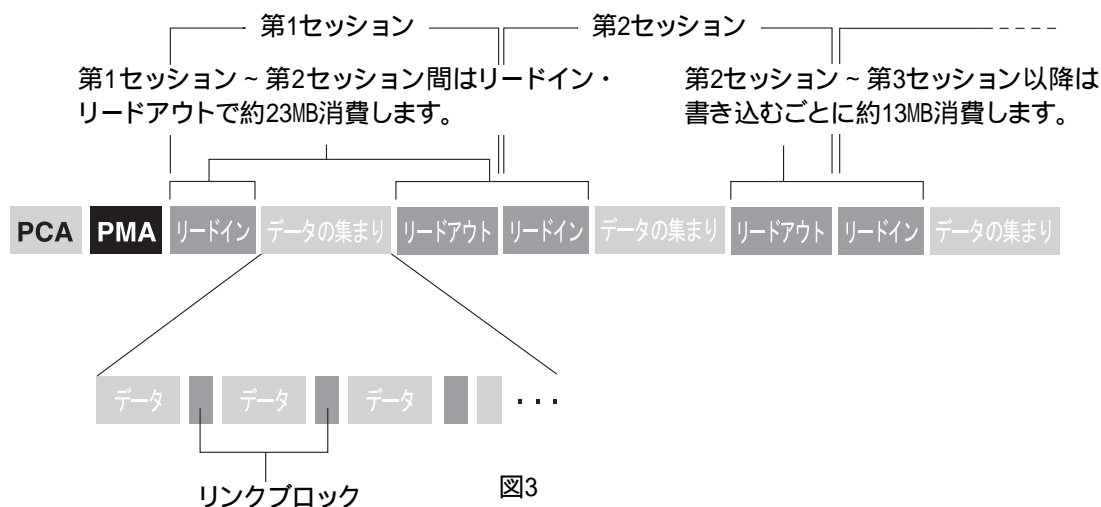



図3

リンクブロック ..... データとデータのつなぎ目。音楽CDの場合、約2秒間の無音状態となります。

次のページへ続く

● セッションアットワンス方式

メモ 音楽データとパソコンで使用可能なファイルデータを1枚のCDに記録するCD Extra形式でデータを書き込むときに「Disc At Once」を選択すると、自動的にセッションアットワンス方式で書き込まれます。

・トラックアットワンス方式と違いリンクブロックが発生しないため、CD-ROMをプレスする際のマスターディスクとして使用できます。
・CD-ROMの標準フォーマットであるISO9660と互換性があるため、一般的なCD-ROMドライブで読み出せます。

2 セットアップ

CDR をパソコンに接続する方法や、操作方法を説明しています。

セットアップ手順

パソコン→周辺機器の順に電源スイッチをOFFにする

▼

CDRをパソコンに接続する

▼

周辺機器（CDRを含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにする

「2 セットアップ」参照

▼

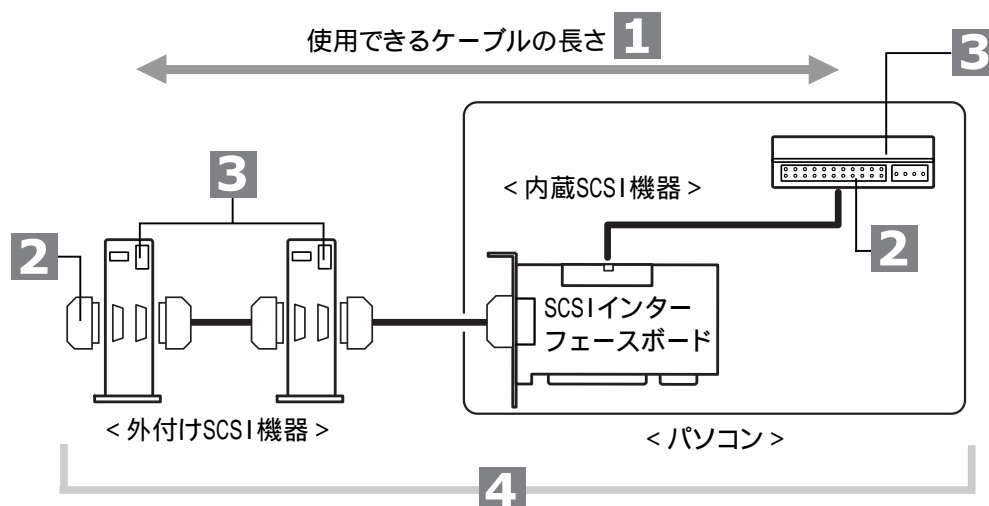
付属のCD-Rライティングソフトウェア「MacCDR」（注）をインストールする

別冊「MacCDRユーザーガイド」参照

⚠注意 MacCDR以外のライティングソフトウェアをインストールしている方へ

MacCDRをインストールする前に、ライティングソフトウェアのCD-ROM用ドライバを必ず無効にしてください。有効のままMacCDRをインストールすると、ドライバが競合し、正常にパソコンが再起動しないことがあります。ドライバの有効／無効は、[アップルメニュー] − [コントロールパネル] − [機能拡張マネージャ] で設定できます。

接続時の注意

本製品やSCSI機器を接続する時の注意事項を、次の図の 1 ～ 4 で説明しています。必ずお読みください。

次のページへ続く

1 SCSIケーブルとコネクタ

● **SCSIインターフェースの種類やUltra SCSI対応のSCSI機器を接続するかどうかによって、接続できるSCSI機器の台数と使用できるケーブルの長さに次のような制限があります。**

SCSI機器の種類	SCSIインターフェースの種類	接続台数	ケーブルの長さの合計(*1)
Ultra SCSI対応のSCSI機器を含む	Ultra SCSI(*2)	1〜3台	3m以下
		4〜7台	1.5m以下
SCSI-2対応のSCSI機器だけ	Ultra SCSI、SCSI-2	7台まで	6m以下

***1 「ケーブルの長さの合計」には、SCSI機器の内部に配線されている部分(10〜20cm程度)も含まれます。**
***2 Ultra SCSI対応のSCSI機器を使用するときは、SCSI機器の台数が多くなるほどSCSIケーブルの長さの合計を短くする必要があります。**

● **SCSIケーブルは一般的なSCSI-2の標準に適合した物を使用してください。**
※ PowerMacintosh G3シリーズの場合は、バスマスタ転送のPCIバス対応SCSIインターフェースボード(弊社製IFC-WSPA、もしくは相当品)および50ピンタイプのSCSIケーブル(弊社製DKC-CS、もしくは相当品)が必要です。

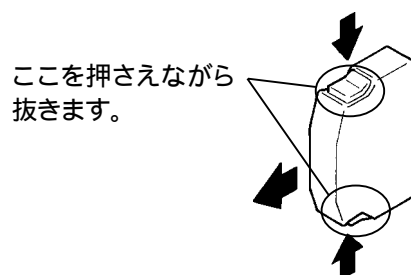
● **SCSIケーブルとSCSI機器のコネクタ形状が合っているか確認してください。**
付属のSCSIケーブルのコネクタは、D-subハーフピッチ50ピン←→D-subフルピッチ25ピンです。パソコンやSCSIインターフェースボードによっては、別売の弊社製接続キットと組み合わせて接続する必要があります。

● **接続に使用するSCSIケーブルの特性インピーダンス値を統一してください。特性インピーダンス値は、SCSIケーブルのパッケージやケーブル自体に印刷されています。弊社製SCSIケーブルの場合は、約90Ωに統一されています。**

● **SCSIケーブルを接続する前に、コネクタのピンが折れたり曲がったりしていないか確認してください。**

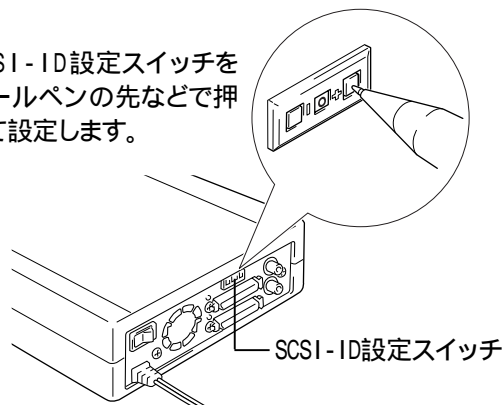
2 ターミネータ(終端抵抗)

● **デイジーチェーン(*)の終端に接続するSCSI機器には、必ずターミネータを取り付けてください。ターミネータ機能を内蔵するSCSI機器を終端に接続した場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。**
内蔵SCSI機器の場合も、SCSIケーブルの終端(1台目用のコネクタ)に接続するSCSI機器は必ずターミネータ機能を有効にしてください。
*** 複数のSCSI機器をケーブルで直列につないだ状態**

● **SCSIケーブルやターミネータを取り外すときは、クランパ(2箇所)を押さえながら引き抜いてください。**
SCSIケーブルやターミネータを取り付けるときは、カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。

次のページへ続く

3 SCSI-ID

- 同じSCSI-IDを複数のSCSI機器に割り当てないでください。ただし、複数のSCSIインターフェースを併用しているときは、異なるSCSIバス間で同じSCSI-IDがあっても構いません。
- SCSI-IDは出荷時に4に設定されています。
- 複数のSCSI機器と併用するときは、SCSI-IDが他のSCSI機器と重複しないように変更してください。
- SCSI-IDは0～6の範囲で設定してください。7は通常SCSIインターフェースボードが使用します。0から順に1、2、3...と連続して設定することをおすすめします。

⚠注意 芯が折れたり、砕けた芯の粉末が発生する鉛筆などの筆記具は使用しないでください。

4 システム全般

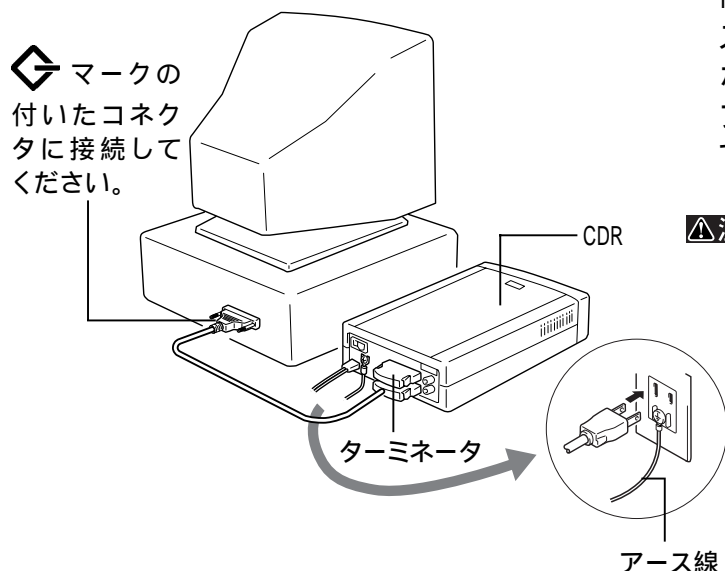
- 取り付け作業をするときは、必ずパソコン本体と周辺機器のマニュアルを参照してください。
- 取り付け作業を始める前に、必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてください。
- 大切なデータを守るため、パソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにする前にアプリケーションをすべて終了し、ハードディスクなどに記録されているデータを他のメディア（フロッピーディスクなど）に保存してください。
- パソコンおよびCDRは精密機器です。巻頭の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」を必ず参照してください。
- 取り付け作業を始める前に、次の物を用意してください。
  - ・パソコンおよび周辺機器のマニュアル
  - ・本製品および付属品
- Ultra SCSIインターフェースをお使いの方へ
  複数のSCSI機器を接続してシステムの動作が不安定になる場合、次の方法で回避できることがあります。
  - ・ Ultra SCSI対応機器（ハードディスクなど）をデイジーチェーンの終端、またはその近くに接続する
  - ・ できるだけ短いSCSIケーブルでSCSI機器を接続する
  - ・ 接続しているSCSI機器の電源スイッチをすべてONにする

  以上の作業を行っても回避できないときは、接続するSCSI機器の台数を減らしてください。

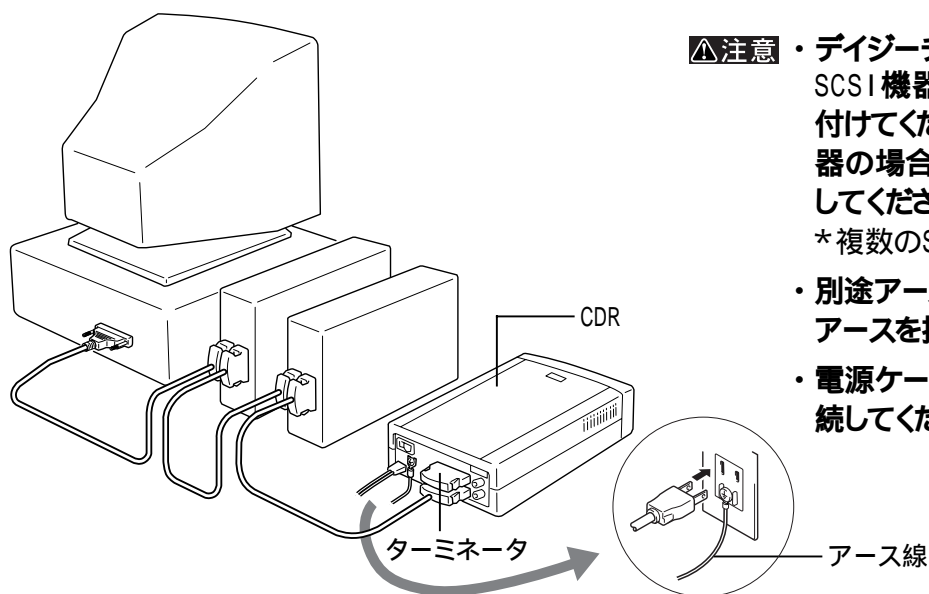
⚠注意 Ultra SCSIインターフェースを使用すると、データ転送速度（理論値）がSCSIインターフェースの2倍になりますが、データをやり取りするタイミングが厳密になるため、複数のSCSI機器を接続した場合に動作が不安定になることがあります。

接続のしかた

⚠注意 事前にパソコンと周辺機器の電源スイッチをすべてOFFにしてください。

CDRだけを接続する

※ PowerMacintosh G3シリーズの場合は、バスマスタ転送のPCIバス対応SCSIインターフェースボード（弊社製IFC-WSPAなど）および50ピンタイプのSCSIケーブル（弊社製DKC-CSなど）が必要です。

⚠注意
- ターミネータを必ず取り付けてください。本製品付属のターミネータを使用してください。
- 別途アース線を用意し、すべての機器にアースを接続してください。
- 電源ケーブルは最後にACコンセントに接続してください。

複数のSCSI機器を接続する

⚠注意
- デイジーチェーン（＊）の終端に接続したSCSI機器には、必ずターミネータを取り付けてください。ターミネータ内蔵SCSI機器の場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。
  ＊複数のSCSI機器を直列に接続した状態
- 別途アース線を用意し、すべての機器にアースを接続してください。
- 電源ケーブルは最後にACコンセントに接続してください。

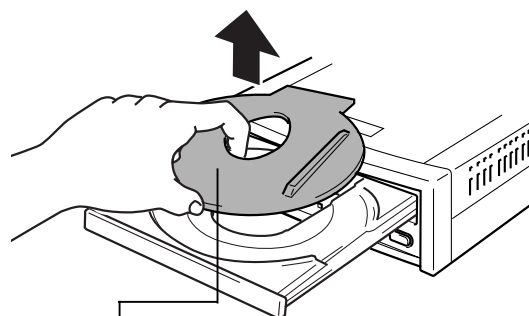
3 取り扱いかた

CDRの操作方法や、メディアの取り扱いに関する注意を説明しています。

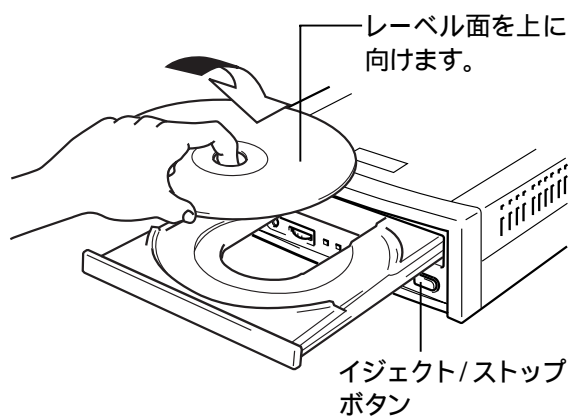
CDRの操作

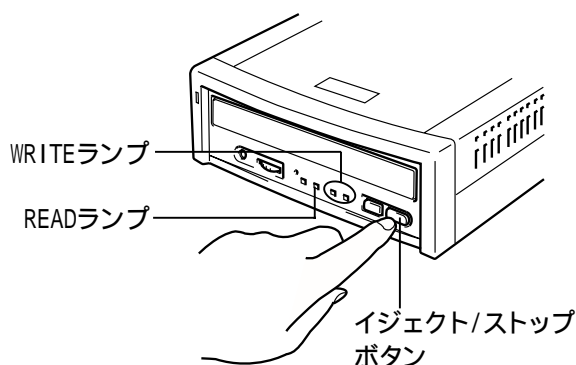
⚠注意 出荷時にトレーに保護プレートがセットされています。使用する前に必ず保護プレートを取り外してください。取り外した後は大切に保管してください。

※ 保護プレートをのせたままトレーの上にCDをセットしないでください。

※ トレーに保護プレートをセットしたままCDRの電源スイッチをONにすると、「ガッガッ」という音がすることがありますが、故障ではありません。イジェクトボタンを押して、トレーから保護プレートを取り外してください。

保護プレート
CDRの運搬時、パソコンの移動時、弊社に修理を依頼するときに、出荷時と同じ状態でトレーにセットしてください。

● CDをセットする

イジェクト/ストップボタンを押してトレーを出し、CDを取り出します。
もう一度イジェクト/ストップボタンを押してトレーを戻します。
CD-Rライティングソフトウェアの操作でもトレーを出せます。

● CDを取り出す

デスクトップ画面上に表示されているCDRのアイコン(アイコンの形はセットしたCDによって異なります)をゴミ箱に移動すると、トレーが出ます。CDを取り出したら、CDRのイジェクト/ストップボタンを押してトレーを戻します。
CD-Rライティングソフトウェアの操作でもトレーを出せます。

次のページへ続く

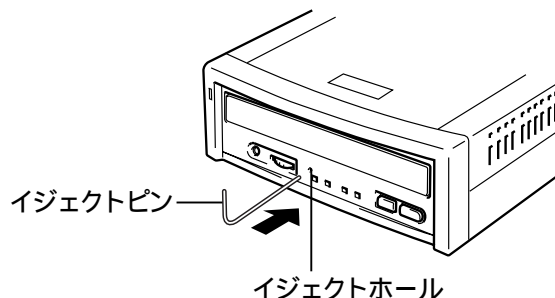
メモ　CDRがマウントされているとき（CDRのアイコンが表示されているとき）は、CDRのイジェクト/ストップボタンを押してもトレーは出ません。CDRがマウントされないときやCDRがパソコンに接続されていないときは、イジェクト/ストップボタンを押してトレーを出せます。

⚠注意　READランプやWRITEランプが点灯しているときは、絶対にイジェクト/ストップボタンを押さないでください。CDやCDRが破損するおそれがあります。

●トレーが出ないとき

停電などによってCDが入ったままの状態で電源が切れてしまうと、イジェクト/ストップボタンを押してもトレーが排出されません。

その場合は、付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込んで、強制的にトレーを排出させます。

⚠注意　この操作は、CDRの電源スイッチをOFFにして30秒以上待ってから行ってください。電源スイッチをOFFにした直後はCDが回転しているため、強制的に排出すると、CDが破損するおそれがあります。

CD-Rメディアの取り扱いに関する注意

CD-Rメディアは繊細なメディアです。わずかな傷や汚れの付着によっても正常に書き込めなくなるおそれがあります。取り扱いには十分注意し、次の事項を必ず守ってください。

- 直射日光に長時間さらさないでください。
- メディアに傷を付けないでください。
- 記録面に手を触れないでください。
- 記録面にゴミやほこりなどが付着しているときは、市販のダストクリーナーで除去してください。
- CD-Rメディアにシールやラベルなどを貼らないでください。
- CD-Rメディア同士を重ねないでください。
- レーベル面にタイトルなどを書き込むときは、ボールペンなど先の硬い筆記具は使用しないでください。

4 書き込みと読み出し

CD-Rメディアへの書き込みと読み出しについて説明しています。

書き込みを失敗しないために

書き込み中に「データ転送が間に合いませんでした」というメッセージが表示されたときは、バッファアンダーラン(*)と呼ばれる書き込みエラーが発生しています。
バッファアンダーランを防ぐために、書き込みを始める前に次の設定を行ってください。

* **書き込み中にCD-Rドライブのバッファが空になり、正常に書き込めなくなる現象。書き込み中にCPUに負荷のかかる作業が行われたときなどに発生します。**
バッファアンダーランの発生したCD-Rメディアは、書き込みも読み出しもできなくなりますが、「MacCDR」のリペア機能でバッファアンダーランの発生したCD-Rメディアの復旧処理を行うことで、残りの容量への書き込みや読み出しが可能になることがあります。詳しくは「MacCDRユーザーガイド」を参照してください。

● **ハードディスクの空き容量を確認しておいてください。**
800MB以上の空き容量を確保することをおすすめします。空き容量が少ない場合は、不要なファイルを削除するか、新しくハードディスクを増設してください。

● **スクリーンセーバーなど、自動的に起動するプログラムはすべて終了してください。**

● **仮想メモリは使用しない設定にしてください。**

● **ライティングソフトウェア以外のアプリケーションを起動しないでください。**
起動しているアプリケーションはすべて終了してください。

● **ネットワーク接続中は、書き込みをしないでください。**
LANなどのネットワーク環境に接続しているときは、ネットワークに接続しないように設定を変更し、パソコンを再起動してください。

● **パソコン本体の省電力モードを無効にしてください。**
レジューム機能、スリープ機能は使用しないでください。

書き込み

書き込みには、付属のライティングソフトウェア「MacCDR」を使用します。

⚠注意 **著作権者の許諾なしにCD-ROMや音楽CDを複製することは法律により禁じられています。CDRを使用して複製するときは、オリジナルCDの使用許諾条件に関する注意事項に従ってください。**

⚠注意 **MacCDRで書き込んだメディアには、他のライティングソフトウェアでは追記できません。**

MacCDRの操作方法や製品情報は、「株式会社アプリックス　ユーザサポート」までお問い合わせください。【「MacCDRユーザーガイド」内の「トラブルシューティング」参照】
CDRの操作方法や製品情報は、株式会社メルコ インフォメーションセンターまでお問い合わせください。【本書の裏表紙参照】
インストール方法と操作方法は、別冊の「MacCDRユーザーガイド」を参照してください。

次のページへ続く

● **ディスクアットワンスでの書き込みが可能なので、プレス用のマスターCDが作成できます。**

● **CD-Rメディアへの書き込み速度は、4倍速、2倍速、1倍速が選択できます。**

● **次のフォーマット形式で書き込めます。**
・音楽CD(CD-DA)
・CD-ROM(Mode1)
・HFS
・ISO9660
・Hybrid
・CD-ROM XA Mode2(Form1、Form2)
・Photo CD(*1)
・Video CD(*2)
・CD Extra
***1 JPGファイルなどの画像データは、Photo CD形式へは変更できません。**
***2 Video CD形式ファイルへの変換には、Video CDの規格に準拠したファイル形式(MPEGなど)でキャプチャしたデータが必要です。キャプチャには、市販のキャプチャボードを使用してください。**

● **起動(ブート)CDが作成可能です。**
※ Apple純正内蔵CD-ROMドライブからだけブート可能です。

● **HFS(Apple専用ファイルシステム)での書き込みが可能です。**

● **Hybrid(ISO9660とHFSフォーマットの混在フォーマット)での書き込みが可能です。**
Hybrid形式で作成したCDは、MacintoshでもWindowsでも読み出せます。

● **CDのバックアップが可能**
CD-ROMドライブから直接バックアップするオンザフライバックアップと、CDR1台だけでも可能な方法(ハードディスクにCDのイメージを作成する方法)があります。
※ 詳しい方法は、別冊「MacCDRユーザーガイド」を参照してください。

● **書き込み動作確認メディア**
弊社で書き込み動作を確認したCD-Rメディアは次のとおりです。
太陽誘電、RICOH、FUJIFILM、SONY、TDK

読み出し

CDRは、CD-ROMドライブと同じようにCD-ROMの読み出しや音楽CDの再生ができます。

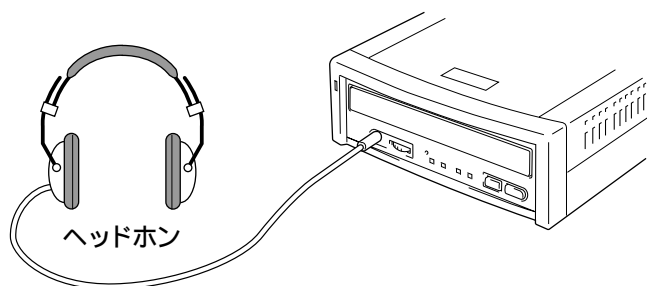
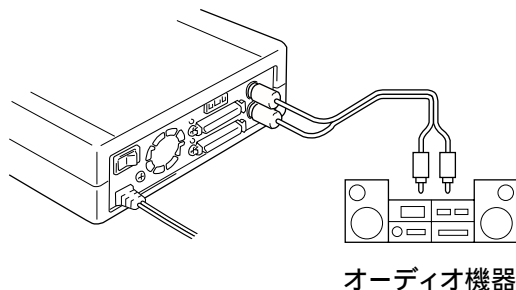
● **次のフォーマット形式のCDを読み出せます。**
・CD-DA(音楽CD)
・CD-ROM(Mode1)
・HFS
・ISO9660
・Hybrid
・CD-ROM XA Mode2(Form1、Form2)
・Photo CD(*)
・Video CD(*)
・CD Extra
*** 読み出しには、再生用のソフトウェアまたはハードウェアが別途必要です。**

5 音楽CDを聴くには

CDRにオーディオ機器を接続すれば、音楽CDの演奏が楽しめます。

オーディオ機器の接続

次の図のように接続してください。

ヘッドホンの場合

スピーカやステレオの場合

⚠注意 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用すると、聴覚障害の原因になります。

再生のしかた

⚠注意 事前にCDRのヘッドホン用ボリュームを下げておいてください。

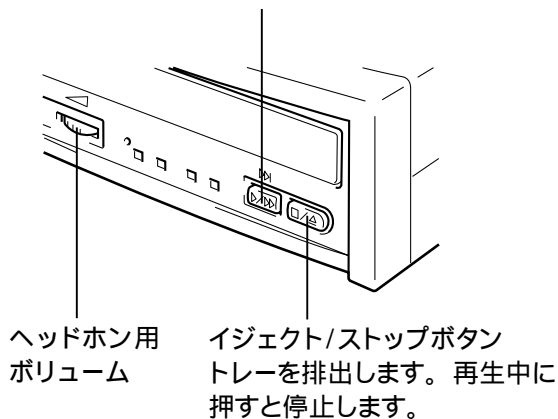
1. 周辺機器（CDRを含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにします。
2. CDRに音楽CDをセットします。
3. CDRのプレイボタンを押します。
4. CDRのヘッドホン用ボリュームで音量を調整します。

メモ OS付属の「Apple CDオーディオプレーヤー」などのソフトでも音楽CDを再生できます。ソフトウェアの操作方法は、ソフトウェアのマニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。

プレイボタン
CDを再生します。再生中に1回押すとスキップ、 1秒以上押し続けると早送りになります。

ヘッドホン用ボリューム

イジェクト/ストップボタン
トレーを排出します。再生中に押すと停止します。

付録

こんなときには

CDRを使用してトラブルが発生したときの原因と対処方法を説明します。

一般的なトラブル

CDRが認識されない

原因	対処方法
CDRが正しく接続されていない	CDRをSCSIインターフェースボードに正しく接続してください。【P14】
他のSCSI機器とSCSI-IDが重複している	接続しているすべてのSCSI機器のSCSI-IDを確認し、重複しないように設定してください。
ターミネータが正しく接続されていない	デイジーチェーンの終端に接続するSCSI機器にターミネータを接続してください。ターミネータ機能を内蔵するSCSI機器の場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。
CDRの電源スイッチがOFFになっている	電源ランプが点灯しているか確認し、点灯していないときは電源スイッチをONにしてください。また、CDRの電源コードをACコンセントに正しく接続してください。

CDRの電源スイッチをONにすると異音がする

原因	対処方法
保護プレートがトレーにセットされている	出荷時に保護プレートがトレーにセットされています。そのままパソコンの電源スイッチをONにすると「ガッガッ」という音がすることがありますが、故障ではありません。イジェクトボタンを押して保護プレートを取り出してください。

トレーが出ない

原因	対処方法
CDRの電源スイッチがOFFになっている	CDRの電源スイッチをONにしてください。 停電などによってCDRの電源が入らないときは、「トレーが出ないとき」【P16】を参照して強制的にトレーを排出してください。

読み出し時のトラブル

2回以上書き込むと前のセッションが読み出せない／読み出し時にエラーが発生する

書き込み時に前のセッションを読み込まないように設定している	CD-Rライティングソフトウェアで書き込む際に、前のセッションを読み込まないように設定していると、新しく書き込んだセッションだけが読み出せるようになります。前に書き込んだセッションも読み出したいときは、前のセッションを参照するように設定して書き込んでください。
CDが汚れている、または破損している	CDの記録面に傷や汚れが付いていると、正しく読み出せません。ほこりなどが付着しているときは市販のダストクリーナーなどで除去してください。
CDが裏返しになっている	CDを取り出し、CDのレーベル面を上に向けてトレーに載せてください。

Photo CDが読み出せない

SCSIインターフェースボードのドライバがPhoto CDに対応していない	SCSIインターフェースボードのメーカに確認し、最新のデバイスドライバを入手してください。弊社製SCSIインターフェースボードは、Photo CDに対応しています。
Photo CDのディスクに欠陥がある	他のPhoto CDが読み出せるか確認してください。読み出せるときは、読めないPhoto CDに欠陥があると考えられます。

読み出し時に異音がする

CDにシールが貼られている	CDにシールなどを貼っていると、CDの重心が偏り、回転時に振動が発生することがあります。絶対にシールなどを貼らないでください。

オーディオ機器から音楽CDの音声が聴こえない

オーディオケーブルが正しく接続されていない	オーディオ機器やパソコン（またはサウンドボード）のマニュアルを参照して、正しく接続してください。

ヘッドホンから音楽CDの音が聴こえない

ボリュームが最小になっている	CDR前面のヘッドホン用ボリュームで調整してください。

書き込み時のトラブル

「データ転送が間に合いませんでした」とエラーメッセージが表示される（バッファアンダーランが発生する）

⚠注意 **バッファアンダーランの発生したCD-Rメディアは、MacCDRのリペア機能を使用しないと追記できません。詳しくは、「MacCDRユーザーガイド」を参照してください。**

ネットワークに接続している	ネットワークに接続しない設定にしてMacintoshを再起動してください。

A

付録

原因	対処
他のアプリケーションが起動している	CD-Rライティングソフトウェア以外のアプリケーションはすべて終了してください。
パソコンのメモリが不足している	パソコンのメモリ容量が少ないと、バッファアンダーランが発生しやすくなります。メモリを増設してください。
ハードディスクの[オートサーマルリキャリブレーション機能]が動作した	高速ハードディスクには、「オートサーマルリキャリブレーション機能」を装備した機種があります。それらの機種を使用していてバッファアンダーランが発生するときは、他のハードディスクを使用してください。
選択している書き込み速度がパソコンに対応していない	十分なメモリ容量とCPU速度が無い場合、8倍速や4倍速では書き込めません。1倍速または2倍速で書き込んでください。
オンザフライ方式で、CD-ROMドライブから8倍速で書き込みを行った	8倍速で書き込むときは、オンザフライ方式の場合でもハードディスクにイメージファイルを作成する作業ドライブを設定してください。もしくは、4倍速以下で書き込みを行ってください。
仮想メモリを使用している	仮想メモリを使用しないように設定してください。

CD-Rメディアにデータを書き込めない

原因	対処
ライティングソフトウェアを使用していない	CDR付属のライティングソフトウェアを使用してください。
CD-ROM、音楽CD(CD-DA)がセットされている	CD-Rメディアにだけデータを書き込めます。CD-Rメディアをセットしてください。
CD-RWメディアがセットされている	CDRではCD-RWメディアには書き込めません。CD-Rメディアをセットしてください。
CDRの電源が入っていない	CDRの電源スイッチをONにしてください。また、電源ケーブルがACコンセントに接続されているか確認してください。
SCSIケーブルが正しく接続されていない	CDRを含むSCSI機器やパソコンに取り付けたSCSIインターフェースボードに、SCSIケーブルを正しく接続してください。
バッファアンダーランの発生したCD-Rメディアを使用している	バッファアンダーランの発生したCD-Rメディアは、MacCDRのリペア機能を使用しないと追記できません。【別冊「MacCDRユーザーガイド」参照】

CD-Rメディアに追記できない

原因	対処
ライティングソフトウェアが違っている	ソフトウェアの仕様により、前回書き込みをしたライティングソフトウェアを使用しないと、CD-Rメディアに追記できません。前回使用したライティングソフトウェアで書き込んでください。
CD-Rメディアの容量が足りない	新しいCD-Rメディアに書き込んでください。
他社製のCD-Rドライブで書き込んだCD-Rメディアを使用している	他社製のCD-Rドライブで書き込んだCD-Rメディアには追記できません。CDRで書き込んだCD-Rメディア、または新しいCD-Rメディアを使用してください。

バッファアンダーランの発生したCD-Rメディアを使用している	バッファアンダーランの発生したCD-Rメディアは、MacCDRのリペア機能を使用しないと追記できません。【別冊「MacCDRユーザーガイド」参照】
ライティングソフトウェアがCDRに対応していない	CDRに付属しているライティングソフトウェアを使用してください。付属品以外のライティングソフトウェアを使用するときは、CDRに対応しているかどうかをソフトウェアのメーカにお問い合わせください。

8倍速や4倍速で書き込みができない

CD-Rメディアが対応していない	8倍速や4倍速書き込みに対応したCD-Rメディアを使用するか、1倍速または2倍速で書き込んでください。
CD-Rメディアが傷ついたり汚れが付着している	CD-Rメディアが傷ついたり、ほこりや汚れが付着している可能性があります。他のCD-Rメディアでもう一度書き込んでみてください。
CD-Rライティングソフトウェアが CDRに対応していない	CDRに付属しているCD-Rライティングソフトウェアを使用してください。

音楽CDをキャプチャしたデータにノイズや音飛びが発生する

音楽CDを再生したCD-ROMドライブが対応していない	CD-ROMドライブによっては、正常に音楽CDをキャプチャできないものがあります。その場合は、CDRで音楽CDを再生してキャプチャしてください。
読み込み速度が適切でない	音楽CDによっては、汚れや小さな傷などによって、20倍速、12倍速、4倍速での読み込み時にノイズが発生することがあります。その場合は読み込み速度を1倍速に設定してください。設定方法は「MacCDRユーザーガイド」を参照してください。
音楽CDに傷がある	音楽CDの傷が原因で音飛びが発生することがあります。

書き込み時に「書き込み後コンペア」の項目を選択できない

音楽CDを書き込んでいる	音楽CDの書き込み時はコンペアは行えません。そのため、これらの項目はグレー表示され、選択できません。

オンザフライ方式でCDのバックアップができない

CD-ROMドライブがオンザフライ方式に対応していない	CD-ROMドライブによっては、オンザフライ方式でCDのバックアップができないことがあります。その場合は、CDRにCDをセットしてバックアップを行ってください。

仕様

※ 最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)をご参照ください。

インターフェース		SCSI-2（シングルエンド）(*1)
SCSIコネクタの形状		D-subハーフピッチ50ピン
アクセスタイム（平均）		170msec
データバッファサイズ		4MB
転送速度	サステンド	書き込み：1200KB/sec（8倍速） 600KB/sec（4倍速） 300KB/sec（2倍速） 150KB/sec（1倍速） 読み出し：最大3000KB/sec（20倍速）
	バースト	非同期転送時：5MB/sec 同期転送時　：10MB/sec
オーディオ端子		1.0V±0.3V　10kΩ
ヘッドホンジャック		0.8V±0.3V　32Ω
外部ターミネータへの電源供給		供給する
SCSI-ID		0〜7(*2)の範囲で設定可能（出荷時設定：4）
消費電力（最大）		17W
サイズ		164(W)×63(H)×295(D)mm
重量		1.8kg
動作環境	温度	5〜35℃
	湿度	20〜80%（結露無きこと）
対応パソコン機種		・PowerMacintoshシリーズ ・PowerMacintosh G3シリーズ
対応OS		・漢字Talk7.5.5以降 ・Mac OS7.6以降

*1 Ultra SCSIインターフェースボードにも接続できますが、その場合の最大転送速度は10MB/secです。
*2 SCSI-ID7は、通常SCSIインターフェースボードが使用します。

用語集

C

CDのクローズ

CD-Rに新しいデータを追記できないようにする処理のこと。最後のセッションのリードインを書き込むときに、次に書き込みを開始するアドレスを記録しないようにすることによって、追記を禁止します。

CD-DA(Compact Disk-Digital Audio)

音楽のCDの規格。1981年にSonyとPhilipsによって規格化され、一般的な音楽CDに適用されています。

CD-R(Compact Disk-Recordable)

データの書き込みが可能なCD。一度書き込まれたデータは削除できません。

CD-ROM(Compact Disk-Read Only Memory)

オーディオ用のCDのエラー訂正機能を強化し、コンピュータのデータを記録できるようにフォーマットを規定したCD。

CIRC(Cross-Interleaved Reed-Solomon Code)

全てのCDのフォーマットで使われているエラー訂正符号。2つのReed-Solomonコードを互い違いに挿入しており、傷やゴミによる読み出しエラーの発生を防ぎます。

E

ECC(Error Correction Code)

プレマスタリングを行う際に、データを暗号化したり、冗長データをCD上に記録するシステム。データの転送中に発生するエラーを検出し、訂正します。

EDC(Error Detection Code)

セクタデータ内のエラーを検出するためのコード。

H

HFS(Hierarchical File System)

Macintoshのファイルシステム。このフォーマット形式で作成されたデータは、Macintoshで読み出せます。

Hybrid

ISO9660フォーマットとHFSフォーマットのデータを混在したフォーマット。MacintoshとWindowsの両方の環境で読み出せます。

I

ISO9660

CD-ROMの論理フォーマットを規定している国際規格。

ISO9660交換レベル

ISO規格で規定されているレベル。レベル1からレベル3まであり、レベルの数字が小さいほど制限が多くなります。

M

Mode

CD-ROMで規定されている物理セクタフォーマット。Mode1とMode2の2種類があり、Mode1はエラー訂正コードが定義されており、高い精度が必要とされるコンピュータデータの記録に使用されます。Mode2はエラー訂正コードが定義されておらず、精度よりも容量を優先するCD-ROM XAなどに使用されます。

P

PCA(Power Calibration Area)

書き込み時に最適なレーザーの出力が得られるように、レーザーの出力の調整をする領域。CDのデータの冒頭部分に確保されています。

PMA(Program Memory Area)

記録中のデータのトラック情報などを一時的に保存する領域。この情報は、セッションのクローズ時にTOCに書き込まれます。

T

TOC(Table Of Contents)

セッション内のトラック情報のこと。トラックのアドレスが記述されています。

ア行

オンザフライ

CD-Rの書き込み方式の一種。あらかじめハードディスク内にCD-ROMイメージを作成するのではなく、CD-ROMイメージを作成しながら書き込みを行います。テンポラリディスクをほとんど必要としないというメリットがありますが、バッファアンダーランの発生する確率が高くなります。CDRに付属のCD-Rライティングソフトウェア「MacCDR」は、この書き込み方式をサポートしています。

サ行

セクタ

CDで読み書きできる最小の単位。

セッション

1つ以上のトラックを含むCDの記録部分。リードイン／プログラムエリア／リードアウトの3つで構成されています。プログラムエリアは、1つ以上のトラックで構成されます。

タ行

ディスクアットワンス

CD-Rの書き込み方式の一種。セッションの始めから終わりまで、レーザーを照射したままで一気に書き込みます。ディスクアットワンス方式では、ディスク1枚につき1つのセッションを書き込めます。この方式で作成したCD-Rは、CD-ROMを作成する際のマスターとして使用できます。CDRに付属のCD-Rライティングソフトウェア「MacCDR」は、この書き込み方式をサポートしています。

トラックアットワンス

CD-Rの書き込み方式の一種。ディスクアットワンスのセッションが、複数回記録できるようになったものです。CDRに付属のCD-Rライティングソフトウェア「MacCDR」は、この書き込み方式をサポートしています。

ハ行

パケットライト

CD-Rの書き込み方式の一種。トラックをさらに小さい「パケット」という単位に分割して書き込みを行います。ハードディスクなどに書き込むような感覚で、ファイル単位での書き込みを行うことが可能です。

バッファ

コンピュータからCD-Rドライブにデータを転送するときに、データを一時的に保存しておくメモリのこと。コンピュータとCD-Rドライブの処理速度の違いを調整します。

バッファアンダーラン

CD-Rへの書き込み時にバッファ内のデータが空になることによって発生するエラー。スクリーンセーバーの起動や他のアプリケーションでの作業などによってCPUに負荷がかかると、発生しやすくなります。

マ行

マウント

コンピュータがCDを認識し、CD内のデータにアクセスできるようにすること。逆の操作を「アンマウント」といいます。

マルチセッション

CD-Rの書き込み方式の一種。ディスクアットワンス方式と違い、ディスク容量に空きがある限り何度でもセッションを書き込むことができます。CDRに付属のCD-Rライティングソフトウェア「MacCDR」は、この書き込み方式をサポートしています。

ラ行

リードアウト

セッションの最後にある領域。データの終了点であることを示します。

リードイン

セッションの先頭にある領域。データの開始点であることを示し、セッションのTOCが格納されます。

リンクされたマルチセッション

マルチセッション方式でのデータの追記方法の1つ。追記するセッションを以前のセッションと関連付けて書き込むので、新しいセッション内から以前のセッションの内容が参照できます。

■保証書について

本製品付属の保証書には保証期間と保証規定が記載されています。内容をお確かめになり、大切に保管してください。

■ ユーザー登録について

ユーザー登録はがきに必要事項を記入して郵送して頂ければ、弊社製品のユーザーとして登録いたします。

※ 本製品に対するサポートやバージョンアップなどのサービスは、ユーザー登録されている方でなければ受けられません。
※ ユーザー登録後に製品を譲渡した場合、ユーザー登録は変更できません。

■ 修理について

故障と思われる症状が発生したときは、まずマニュアルを参照して設定や接続が正しいか確認してください。改善されない場合は、次の事項をお調べになった資料と保証書の原本を添付し、弊社修理センター宛に製品を直接お送りください。

① 返送先 ［氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号］
② 平日昼間の連絡先
［氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号］
③ 修理対象のメルコ製品名
④ 弊社製品ハードウェア シリアルナンバー
⑤ 弊社製品ソフトウェア シリアルナンバー
⑥ 具体的な症状/エラーメッセージ
⑦ 発生状況 ［始めから/ある日突然/環境を変えたら］
⑧ 発生頻度 ［必ず/頻繁/時々/時間が経つと、他］
⑨ コンピュータ ［本体メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑩ ハードディスク ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑪ ディスプレイ ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑫ その他周辺機器 ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑬ OS(オペレーティング・システム)
［ソフト名/メーカ名/バージョン］
⑭ 製品以外の添付品 ［付属ソフトなど］

製品送付先	〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内33号6階 株式会社メルコ 修理センター宛
電話番号	052-889-2104

※ ご依頼いただいた修理品以外に関するお問い合わせは承っておりません。
※ 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。郵送は固くお断りいたします。
※ 送料は送り主様のご負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
※ 修理にお送りいただく際に、弊社への事前連絡は不要です。
※ ハードディスクをお送りいただいた場合、そのハードディスクはフォーマットいたします。必要なデータは事前にバックアップを作成しておいてください。
※ 修理期間は、製品の到着後7日程度（弊社営業日数）を予定しております。

■ MacCDRのサポートについて

付属のお客様登録カード(MacCDR用)は、必要事項をご記入の上、必ず郵送してください。また、MacCDRの操作方法や製品情報は、「株式会社アプリックス　ユーザサポート」までお問い合わせください。【「MacCDRユーザーガイド」内の「トラブルシューティング」参照】

※ 株式会社メルコでは、MacCDRに関すると問い合わせは受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

CDR-S820A ユーザーズマニュアル

1999年5月6日 初版発行
発行　　株式会社メルコ

弊社製品の情報は次の方法で入手できます

インターネット

http://www.melcoinc.co.jp/

（ミラーサーバ　http://www.melcoinc.com/）

NIFTY SERVE

MELCO Station　＜GO SMELCO＞

FAX情報

052-614-6911

情報を受け取りたいFAXの電話でダイヤルし、
音声案内に従って操作してください。
※プッシュ信号（ピ・ポ・パ音）の出るFAXを
　使用してください。

製品サポート

インフォメーションセンター

〒457-8520　名古屋市南区柴田本通4-15
株式会社メルコ ハイテクセンター内

本製品のサポートは下記で承っております。

＜東　京＞ 03-5350-7990

月～金　9:30～12:00/13:00～19:00　※祝日を除く
土/祝　9:30～12:00/13:00～17:00　※日曜日を除く

＜名古屋＞ 052-619-1897

月～金　9:30～12:00/13:00～17:00　※祝日を除く

※事前にメモとペンを用意し、次の事項を確認して
　おいてください。
・コンピュータ名と使用OS
・本製品の製品名とシリアルナンバー
・現象（具体的なエラーメッセージなど）

「メルブック」シリーズ

①メモリを知ろう
②LANを知ろう
③外部記憶装置を知ろう
④Windowsを知ろう
⑤386マシンをマルチメディアパソコンにする
⑦CPUアクセラレータを知ろう
⑪イメージクリップセットとWordで年賀状をつくろう
⑫外部記憶装置をグレードアップしよう
⑬イメージクリップボードでホームページをつくろう
⑭インターネットを始めよう
⑮ミニコンポ 企業での導入事例

1冊1,000円＋送料270円　※書店では販売しておりません。

お申し込み先		
	1.インターネット	http://www.melcoinc.co.jp/qa/info3.html
	2.FAX情報	052-614-6911(BOX No.0800)
	3.郵送	〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15　株式会社メルコ 備品販売窓口

PY00-25004-DM10-01

1-01